



「ぼくの わたしの すきな 本」



こんな本だよ



(出版社：講談社)

あらしの夜に、あらしがあまりにもひどいのでヤギが小やの中に入りました。その時、オオカミが「ガタン」と、音を立てました。オオカミはヤギの肉が大好きなのです。わたしは、「どうしよう」と思いました。でも、ヤギはふつうに「すごいあらしですね。」と言いました。そしたらオオカミも「そうですね。」と答えました。そのつづきは、オオカミがヤギをたすけるのです。

この本のところが好き！

ヤギはオオカミに「わたしを食べて。」と言いました。その時、オオカミのおながが「ぐうー」となりました。ヤギが「ほらね」と言っても、オオカミは、「友だちはだめなんだから」と言いつつうろが好いです。なぜなら、オオカミはヤギが好きだということがわかるからです。

本の名前
なまえ

あらしのよるに

本を書いた人
か

きむら ゆうち

びっくりするような出会いをしたふたり。助け合っていく
なか あいて 中で相手をおもいきもちが強くなっていくよ。ふたりが、
どのように苦勞をのりこえていくのか気になるね。

